

「ごみ袋 ダイエット運動」 を行います。



5月30日は「ごみゼロ」の日です。この日にちなんで前後1週間のごみ出し時間帯に市職員が収集場所で「ごみ袋ダイエット運動」を行います。

「ごみ袋に紙・布類は入ってませんか?」「生ごみはしっかり水切りをしてからごみ袋に入れてください。」と、声かけさせていただきますので、ごみの出し方などがお分かりにならない場合は、気軽にお問い合わせください。(※ごみ収集場所は市内に1543カ所あり、全ての収集場所で啓発運動を行うことができませんがあしからずご了承願います。)

ごみの分別排出には手間がかかりますが、不要な焼却コストの削減と環境負荷の軽減を図り、自然豊かで住みよい高島市を守り続けるため、市民の皆さんのご理解とご協力をお願いします。



生ごみダイエットも

燃えるごみのうち約20%は生ごみです。家庭から出る生ごみを堆肥化して家庭菜園等に有効利用しませんか。

生ごみ堆肥化の方法を学んでいただくための講習会も随時開催します。受講を希望される方は、環境エネルギー課までお問い合わせください。(詳しくは広報たかしま5月15日号8ページをご覧ください。)

(環境エネルギー課)

まちづくりは燃えるごみのダイエットから

ごみ減量大作戦!

皆さんの家庭から出されたごみ袋は、ごみ収集場所から環境センター(今津町途中谷地先)に運ばれ、全て焼却処分されています。皆さんは1年間にどのくらいごみが排出されているかご存知ですか。

平成17年度の1年間で排出されたごみの量は約2万3千トンで、その内焼却処分されたごみの量は約1万6千トン。その量はなんと学校体育館12個分にもなります。



環境センター

ごみの8割が 燃えるごみです。

皆さんの資源化に対する意識の高まりから不燃ごみは減量傾向にあります。可燃ごみはここ10年間増加傾向にあります。収集車が回収するごみを減らすことは、処理場を長持ちさせたり、貴重な税金の無駄遣いを抑えることにつながります。ごみの減量は、皆さんの協力が不可欠です。皆さんのひと手間が大きな効果をもたらします。

まずは燃えるごみに含まれている紙・布類を減らしましょう。週2回出す燃えるごみ。その中身の約3割が紙類や布類で、その多くは再生可能なチラシや封筒、紙箱、用紙などの紙類です。また、焼却に直接必要となる電気代や灯油代、薬品代は年間に約1億2千5百万円にもなります。新聞紙はキチンと分別しても、ほかの紙類はついつい燃えるごみに入れて出していることはありませんか。新聞・段ボール・雑誌・紙パック以外でも分別すればリサイクルができます。

★リサイクルできるってどんな紙? 紙箱、ティッシュボックス、包装紙、封筒、カレンダー、パンフレット、ノート、紙袋、コピー用紙、シュレッダーした紙、割り箸袋、メモ用紙など

★どうやって出すの? 紙袋や古封筒などためておき、いっぱいになったら雑誌などと一緒に出して出してください。

※紙・布類の回収場所は環境力レンダーでご確認ください。



◆目指せ1日150g ダイエット

近年の高島市の1人1日あたりの燃えるごみの排出量は750gで、滋賀県平均の718gを上回っています。

燃えるごみの半分は減量することが可能といわれています。高島市では、平成18年度に市民挙げてのごみ減量20%を目標に掲げています。これを市民1人1日あたり換算すると150gになります。

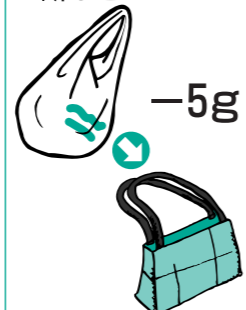
●ちょっとした工夫で減量達成

★紙類をリサイクルに回すと…



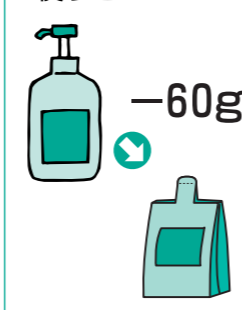
チラシ(A4)なら1枚で6gの減量

★マイバック持参で、過剰包装を断ると…



レジ袋なら1枚で5gの減量

★使い捨てでなく、詰め替え商品を使うと



洗剤などで詰め替え商品を利用すると60gの減量

※紹介した重さはあくまで目安です。大きさ・素材により異なる場合があります。

このほかにも、買わず、作りすぎをしないように心がけたり、リサイクル可能なものは資源回収に出すなど、ちょっとした心がけで、150gは簡単に減らせます。1年間続けることにより、ごみの焼却量が年間3千2百t削減され、これにより、焼却に直接必要な経費が節約できるだけでなく、地球温暖化の原因でもある二酸化炭素の排出量を削減することができます。あなたのちょっとした工夫が、地球環境を守ります。